

平成28年7月20日(火)

老球の細道251

老人とバスケットボール

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ノーベル賞文学賞を受賞したアーネスト・ヘミングウェイの晩年の海洋小説に『老人と海』というのがある。1952年に出版され、世界的なベストセラーとなった。ヘミングウェイがノーベル文学賞を受賞したのはこの作品によるところが大きいと言われている。残念ながら彼は1961年に猟銃で自殺している(『武器よさらば』という有名な作品もかいているのになぜ?)。

この小説はキューバの老漁夫とカジキマグロとの壮絶な戦いを描いた作品である。老人とは思えないパワーでカジキマグロとの死闘に勝利をおさめるが、獲物を持ち帰る時に、大きすぎた獲物を船の横に縛りつけて運んだためにアオザメの群れに追いかける。今度はそのアオザメ達との死闘。必死の戦いにもかかわらずカジキマグロはアオザメに食い荒らされてしまう。カジキマグロとの戦いは老人の若い頃の人生を象徴し、帰港時のアオザメとの戦いは現在の老人の姿、そして食い荒らされたカジキマグロが老人とオーバーラップする。悲劇的なストーリーは、ヘミングウェイ自身の晩年の心境を反映しているのではないかとされている。

さて、還暦を過ぎた私は老漁師のような戦いに身を投じることがあるのだろうか。もちろんバスケットボールにおいてであり、コーチとしてである。最近バスケットボールの夢を見る。昨日も見た。ゴール下で何本もシュートは打つのだがさっぱり入らない。生徒達が見ているのに入らないので赤面の自分がいた。もう一つの夢は試合会場に行くのだが途中で車が故障してトランクがあかない。トランクの中にはバスケットボールの試合道具が入っているのに出せない。試合時間が始まってしまう。どうしようどうしようという夢。そしてもう一つは、ドライブしてゴールに向かうのだがデイフェンスの強烈なファールにあう。しかし審判はさっぱりファールをとらない。激怒して抗議するがらちがあかない状態で目が覚めた。

最近見る夢はバスケットボールにおいて失敗したことやマイナスなことばかり。厭世的な最近の心境を反映しているのだろうか。それとも現役時代最後のコーチ業で、生徒たちの夢を叶えさせることができなかった自責の念を引きずっているからだろうか。

以前、最愛の妻と死別し人生に絶望した初老の男が戦う映画『ザ・グレイ』を見た。乗った旅客機の事故で奇跡的にも助かことから生きる事に目覚めていく。しかしその後命がけの壮絶な戦いが待っている。次から次へと死んでいく仲間の中で最後まで生き残る。一人っきりになった最後は狼の群れとの死闘が待つ。絶体絶命のピンチに頭に浮かんだのは、幼少の頃に自分の父が書いたたった4行ばかりの詩。「もう一度戦って 最強の敵を倒せたら その日に死んでも 悔いはない」。老人はみんな戦っている。老後のことなど考えている場合ではない。

かつて第2次世界大戦を戦ったアメリカの将軍ダグラス・マッカーサーは言った「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」。私も消え去る前に、誰にでも無鉄砲に戦いを挑んだ若い時分のように、カジキマグロと死闘を演じたヘミングウェイの老漁師のように、もう一度激しい戦いがしたいものである。その日には死なない程度に……………。